

## 放課後も「きたコン」は活躍中!

### 滝野川子ども食堂



▶滝野川子ども食堂では、月2回プログラミング教室を実施しています。取材した日は6名の小中学生が参加し、「きたコン」で「きたらっち（スクラッチの北区版）」や「スクラッチジュニア」を使って、思い思いの作品をプログラミングして楽しんでいました。

▶この日の指導は NPO 法人プログラミング教育研究所の伊藤功一所長とスタッフの吉田優城さんが行っていて、子どもたちは同研究所が教材化した数多くのテキストから自由に選び、自分たちでどんどん進めていました。伊藤所長は、「子どもたちは慣れてくると、キャラクターや背景を変えたり、設定値をいろいろ試したりするので、こちらが毎回驚かされるんですよ。」と嬉しそうでした。

▶小学2年生の男子は、「もう3つぐらいつくりました。つくりあげるのが楽しいです。」と、早くもプログラミングの醍醐味や楽しさを感じていました。

▶代表の我妻澄江さんは、「こども食堂に慣れ親しんでいる子どもたちが、食堂の会場で無料でプログラミングも学べるのは、学びが広がるともいい機会になります。そこにやりがいを感じています。」と話してくださいました。こういう方々が地域で子どもたちを支えてくださっていることに、感謝でいっぱいです。

一般社団法人「COCORO ごはん」  
<https://www.t-kodomoosyokudo.com/>

代表：我妻澄江さん



## 放課後の秘密基地「JimoKids」

▶JimoKids は、JR埼京線板橋駅の近くにある、築60年の石蔵を改装した大人と子どもの居場所空間です。たくさん子ども向けプランのひとつに「ティンカリングDay」があり、デジタル、サイエンス、アートなど、放課後の子どもたちの「やってみたい」を実現できる環境が用意されています。

▶取材の日、子どもたちはアクセサリを作ったり、壁のホワイトボードに絵を描いたり、プログラミングやタイピングをしたり、思い思いにやりたいことを自由に取り組んでいました。

▶「きたコン」に向かっていた4年生男子が見せてくれた、自分で考えて作ったオリジナルのゲームには、スキルの高さに驚きました。4年生女子は、「いつか、みんなで協力して一つのゲームをつくりたいです。」と夢を話してくれました。サポーターの亀山健治さんは、「こっちが教えられることが多いんですよ。」と嬉しそうでした。

▶代表の畑川麻紀子さんは、「子どもたちには、モノづくりや学び合いを通じて、失敗を恐れず、小さな挑戦を積み重ねられる人になってほしいです。そして、そのときに年代やバックグラウンドに関わらず、周りの人たちを巻き込み、共に一歩を踏み出せると素敵だなと思っています。」と語ってくださいました。ここには今求められている主体的・対話的で深い学びがあり、「きたコン」がその道具として活用されていることに喜びを感じました。

「JimoKids」 <https://jimokids.com/>



代表：畑川麻紀子さん



「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

## きたちゃんコンちゃん

by Toshi



## 北区子どもプログラミング・コンテスト

1月28日(日) 北とびあ飛鳥ホール

▶北区教育委員会とNPO法人・プログラミング教育研究所が主催する「第6回北区子どもプログラミング・コンテスト表彰式」が行われ、たくさんの参加者で盛り上がりしました。表彰式以外にも、作者による作品紹介やプログラミング体験もあり、大変好評でした。

▶北区の子どもたちが、このコンテストをきっかけにプログラミングに興味をもち、楽しみながら学んでくれるといいですね!

<https://j-code.org/contest/>

